

理由示さぬ4校廃止計画

都立定時制存続を①

都立高校の夜間定時制廃止問題の発端は、2015年11月26日に東京都教育委員会（以下、都教委）が発表した「改革推進計画・新実施計画案」でした。

チャレンジスクールや昼夜間定時制など三部制定時制は、「応募倍率が高く、特に多摩地域にはチャレンジスクールが設置されていないために23区内にあるチャレンジスクールに長時間かけて通学する生徒が相当数存在している」。

一方、夜間定時制は、勤労青少年の生徒が減少して多様な生徒が在籍するようになり、それぞれの状況に応じた指導が必要になっている。全日制定時制併置校では施設の共用による利用上の時間的制約があり、定時制課程・全日制課程双方にとって十分な指導時間が確保できない状況がある。

だから「チャレンジスクールや昼夜間定時制の規模拡大と並行して、近隣の夜間定時制課程を閉課程（廃止）する」というのです。小山台高校、雪谷高校、江北高校、立川高校の4校の夜間定時

制が名指しされました。

チャレンジスクールなどの規模拡大に異論はありません。しかし、「並行して近隣の夜間定時制を廃止する」というのはまったく理屈が通りません。都教委が行ったパブリックコメントでも252件中177件が定時制に関する意見で、172件が廃止に反対の意見でした。

特に私たちが問題にしたのは、4校ほどある夜間定時制の中からなぜこの4校を選んだのかという理由です。4校とも交通至便なところにあり、生徒数も多い方の学校です。特に立川高定時制は全都で1、2を争う大規模定時制でした。何故この4校なのか？ 私たちは説明会の開催を求め、質問書を提出しました。しかし、都教委は今日に至るまで選定理由を一切説明していません。情報開示請求もしましたが、出てきたのはほぼ全面黒塗りの1枚のみでした。

2016年2月12日、都教委は、廃止に反対する8378人分の署名や125人の学者・文化人の「共同声明」など都民の声に応えることなく、4校の定時制廃止を含む「改革推進計画・新実施計画」を決定



都立高校のいまを考える全都連絡会のチラシ（多賀哲弥・元都立定時制高校教員）

決めたが、時期は未定」という異例の決定でしたから、以後毎年「募集停止させない」運動に取り組むことになりました。